

第10号様式(第7項関係)

政務活動出張報告書

令和元年11月5日

会派名 社民党

代表者 伊藤 一之 様

出張者 伊藤 一之



次のとおり、政務活動(調査研究)のため出張したので、その概要を報告します。

- 1 出張先 高知県高知市  
香川県坂出市
- 2 出張日時 令和元年10月30日(水)~令和元年11月1日(金)  
2泊3日
- 3 政務活動事項
  - ① 高知県高知市  
第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知参加
  - ② 香川県坂出市  
公共交通施策について
- 4 政務活動結果 別紙のとおり
- 5 費用 81,440円

# 政務調査報告書 2019.11.5

2019年10月30日(水)～11月1日(金)

社民党 伊藤一之

## ●1日目

(1)日時 2019年10月30日(水)13時00分から

(2)調査地 高知県高知市「高知じばさんセンター」

『第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知』

## (3)研修項目

- 1部-基調講演「現代政治のマトリクス-リベラル保守という可能性」  
講師 中島岳志(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)

### 【所感】

①政治的リスク②ラディカルデモクラシーとポピュリズム③リベラルの逆説④保守とは何かと4篇に分けて政治の動向について話がされた。少し難しく聞いた。

彼は政治家を考えると、お金やその価値の問題をどう考えるかで評価するという話をされていた。しかし、個人的にはそうだろうかと考える。

リベラルや、自民党、野党の立ち位置等にも言及された。一つの意見として参考にしていきたいと考える。

## ○ 2部-パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

### ■ コーディネーター

- ・ [ ] (朝日新聞論説委員)

### ■ パネリスト

- ・ [ ] (市町村職員中央研修所学長)
- ・ 横田響子(株・コラボラボ代表取締役、お茶の水女子大客員教授)
- ・ [ ] (高松丸亀町商店街振興組合・理事長)
- ・ 田鍋 剛(高知市議会議長)

### 【所感】

[ ]氏からは統一地方選の課題であった点を3点言われた。①「低投票率について」②「議員のなり手不足」③「議員層の偏り(女性・若者が少ない)について」であった。無投票当選が多くなったことなども言われていた。何らかの対応が必要と言われていたが、具体的な話には及ばなかった。今後もこの課題は重要だと考える。

議会改革や議会が何をしているのか、しっかりと分かりやすく市民に伝えることの重要性も言われていた。自分としても手作りの議会だよりや報告会をしているがやはり一部の市民にだけしか理解をされていないのかもしれない。基本条例だけが議会改革だとは考えていないが参考にすることは多かった。

横田氏からは「20年後の住民のための幸せの議論がされているか」と提起をされていた。2040年を指標にデータを持って検証をすることも勧められてい

た。「EBPM」→「evidencebased policy making」の略と言われたが、初めて聞く言葉だった。いわゆるデータを基に政策を立てるとのことらしい。

「EBPM」に基づいていろいろ言われたが、これからの施策実現に参考にしていきたい。

## ●2日目

(1)日 時 2019年10月31日(木) 9時00分から

(2)調査地 高知県高知市「高知じばさんセンター」

『第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知』

### (3)研修項目

○ パネルディスカッション

「議会活性化のための船中八策」

▪ コーディネーター

・ [REDACTED] (朝日新聞論説委員)

▪ パネリスト

・ 滝沢一成(上越市議会議員)

・ 久坂くにえ(鎌倉市議会議長)

・ 小林雄二(周南市議会議長)

### 【所 感】

滝沢氏から新潟・上越市議会の「市議を目指しやすい環境整備検討会」について報告がされた。1年間で20回の会議を重ね、5つの大項目と小項目19を提言したということであった。項目別に様々言われていたが、7項目については緊急に実行していくということも提案したということであった。「議会改革推進こそ、議員を目指す人々を獲得する最大の力だ！」と上越市議会には信じていると結んでいた。

久坂氏からは、「女性議員の現状の視点」ということで発言がされた。久坂氏は女性議員で、しかも現職で出産をし活動をしているということで、少し感動を覚えた。女性として日々の活動での困難や壁を感じているということであった。それは未だに地方議員の身分が明確にされていないからだと分析をしていた。そういう視点で話されたので、興味深く聞いた。

小林氏からは、「議会基本条例に拘らずに取り組む議会改革」ということで発言があった。周南市では合併時、議員報酬の問題で住民投票が行われ、合併即日に議会解散となった。議会解散という経験と教訓が議会改革の原動力になったとも話されていた。市民に、より開かれた議会」として「公開」と「対話」をキーワードに議会改革への市民参画等を議会改革の目標としているとの事であったが、「議会基本条例」には前向きな考えを持っていないようである。唐津市議会としても「より開かれた議会」を目指し、合わせて「議会基本条例」も視野に入れて熟考したいと考える。

●3 日目

(1)日 時 2019年11月1日(金) 13時30分から

(2)調査地 香川県坂出市

(3)研修項目

「公共交通政策について」

【所 感】

予定通り13時30分から、坂出市役所3階の議会会議室で意見交換を行った。坂出市議会事務局・宮川次長の司会で始まり、楠井常夫副議長から歓迎の挨拶がされ、副議長のご息がが鳥栖市に一年のほとんどを出張で過ごしていることなどが紹介されて佐賀県との関わりも大きいと話された。次に私から、調査・研究への協力のお礼を含めて、唐津の現状などを紹介した。

つづいて建設経済部都市整備課・主幹の浜田氏、長尾主事から本日の主題である「地域公共交通について」が説明をされた。公共交通マップをもとに説明がされたが、色分け等に工夫があり興味を持った。市内循環バスは、東西2路線が整備されていた。坂出駅を出発点に、2路線が同時に発車し、同時に坂出駅に帰ってくるという方法を取っていた、1周35分(5分休憩)で40分間隔での運行である。難点は、逆方向への移動は大回りになり、時間がかかるということだ。その解消のために、今年の12月から東西のルートとは別に「中央ルート」を整備し東西の逆方向への乗り継ぎができるようにする実証実験が行われるということであった。唐津市でも大いに参考になることだと思う。

次に、私たちの主目的である「デマンド交通」について詳しく説明がされた。様々な点で参考になることが多い。①お客のいない時には運行をしなくていい。②機動性がある。③予算が安価ある。等々。デマンドの地域を3地区にしていた。その内の1地区は、発足時には2地区に分割をしていたが要望で1地区にしたということであった。地区が広がったことで予算が大きくなると考えていたが、逆に半分ほどの経費で済むようになった。なるべく広い地区を設定する方が(場合によるが)、経費が小さくなるのではないかということであった。

唐津市もバス運行で2億円弱の予算が執行をされている。デマンド交通などの利点を活用しながら、市民の足の確保に努めなければならないと痛感した。